

6番三田地久志でございます。通告に基づきまして質問をいたします。趣意汲み取りいただき明確な答弁をお願い致します。

地域おこし協力隊員による高齢者の所得確保策について

先ずは、中居町長には2期目のスタートおめでとうでございます。1期目は、災害からの復旧に追われ、中居カラーが中々出せなかったのではないかと推察します。

しかし、2期目においてはコロナ禍ではありますが、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えつつ、果敢に町政運営を推進していただくことを期待しております。

さて、岩泉町の1月末の人口は8,568名ですが、うち3,889名が65歳以上で、高齢化率は45.4%であります。

各地区別に高齢化率を見ていきますと、岩泉地区41.8%、小川地区50.9%、大川地区54.7%、小本地区39.2%、安家地区61.8%、有芸地区50.3%です。

高齢化率は、今後も上昇していくことは目に見えております。

さらに、65歳以上の方々が受給している年金についても調べたところ、複数の年金を受給している被保険者があるため、各年

金の実数はつかむことが出来ませんでした。

そこで、日本年金機構のデータを見ますと、国民年金の基礎年金は満額で月額65,000円程です。貯えがなければ、年金だけの生活はかなり厳しいのではないかと推察されます。

そこで、高齢者のための施策として短時間でも労働対価が得られる仕組みを作ることが必要ではないか、との思いを強く持った次第です。

町の高齢者の施策としては、健康増進、維持については色々と実行しておりますが、もう少し角度を変え高齢者の所得確保について討議を進めさせていただきます。

先ずは、高齢化率の一番高い安家地区をモデル地区として提案させていただきます。

安家地区では、スローフードで認定された「安家地大根」の更なる活用をしてはどうかと考えます。

昨年の秋、安家地区を通った時に地大根が1本100円で販売されていました。

他に地大根を販売しているのは、道の駅くらいではないでしょうか。せっかくメディアでも取り上げられたにもかかわらず、その後の展開が見えてきていません。

生食での流通が困難であれば、地大根の特性を生かした加工

品として流通させることが出来ると思われれます。

もちろん、一品だけでは事業としては成り立ちませんので、安家の栗饅頭も可能性があると思われれます。郷土食の伝承もかねて事業化すべきと思われれます。

さらに、安家地区は石灰岩地帯ですので特有の植生もあります。柏の葉も商品化が期待できます。

日本が輸入に頼っている一次産品で、岩泉でも可能性のあるもの、そして獣害に合わず軽量で取り扱いがしやすい高齢者でも容易な物を探してみるべきと思われれます。そうすると、例えば山椒の実が浮かび上がってきます。

このように、探していけば岩泉の潜在能力はまだまだ可能性を秘めています。

そこで、課題になってくるのは加工する場所とそのリーダーです。場所については行政の出番で、プレハブの加工場所を造営することです。リーダーは、地元の方ではなく、地域おこし協力隊員の活用です。他地区から見た岩泉をはっきりと認識していただいて、作付けから収穫・加工・流通までを担っていただき、高齢者への賃金まで繋げ、事業として成り立つ仕組みを構築していただける協力隊員を募集してはいかがでしょうか。

日本国内で自動車産業に従事している方々は関連も含めて

500万人いるそうです。自動車の内燃機関がEVに置き換わると約100万人の雇用がなくなるとの試算がされています。

また、直近では日本たばこ産業が早期退職者を募集したところ3,000名以上の応募があり、3月末で退職することが確定しているとのことです。

現状の日本はコロナ禍により、働き方を含めて新たな時代に向かっているように感じられます。このことは、町にとってはチャンスと捉え、じっくりと戦略を練りながら地域おこし協力隊制度を活用し高齢者の所得確保と移住定住化を見据えた施策を構築すべきと思いますが、町長の考えを伺います。

6番 三田地 久志 議員の御質問にお答えします。

地域おこし協力隊を活用した高齢者の所得確保対策ではありますが、議員御案内のとおり、高齢者の所得確保は町にとって重要な課題であり、地域おこし協力隊をキーパーソンとして課題解決に導く方法は、大変有効な手段であると考えております。

御提案いただきました安家地区においては、安家地域振興協議会を受け入れ先として、平成30年度から地場産品の掘り起こしや食文化の継承などをテーマにした地域おこし協力隊の募集を開始しておりますが、着任希望者がいないのが現状でございます。

しかしながら、コロナ禍により地方移住への関心が高まっていることから、安家地区の魅力の発信を強化するため、PR動画を作成して取り組んでおりますので、まずはお試しプログラムの体験につながるよう引き続き注力してまいります。

そして、高齢化が進む安家地区には、御案内の安家地大根、栗饅頭などの食のほか、様々な観光資源も眠っています。

食・文化・観光などを有機的に組み合わせ、高齢者の所得確保へつながる事業へ展開させるためにも、関係機関が連携しながら、原動力となる地域おこし協力隊の確保とフォローに努めてまいります。

また本年度は、地域課題検討調査事業において、所得確保についても検討テーマに含めながら、地域課題の解決に向けた取組を進めているところでもあります。

今後は、企業版ふるさと納税の人材派遣型など、外部人材の活用に関する制度の導入も視野に入れながら、高齢者の所得確保につながる施策を構築してまいります。

安家地区の皆様が精魂込めて作った地大根や栗饅頭を、より多くの方々に知っていただくことが地域の高齢者の生きがいにもつながるものと考えておりますことから、まずは安家地区をモデルに取組を推進し、仕組が構築できましたならば、他の地域への導入も進め、町全体の地域活性化につなげてまいりたいと考えております。

以上で答弁を終わります。